

今後の設立準備会の進め方

■ これまでのプロセスについて

- みんなでまちづくりトークで地域の魅力や課題を話し合ってきました。意見の出された地域課題の解決に向けて提案された8分野の取り組み項目を、重要性・実現性の視点からグループワークで検討し、点数化したものをマトリクス一覧表に整理しました。【資料2-1、2-2】

■ まちづくり計画策定に向けたこれからの検討のゴール・手順・ポイント

【検討のゴール】

【資料3-1】まちづくり計画 取り組み分野の体系図の例をもとに、取り組み項目(全59項目)を取捨選択し、最終的に分野ごとの『目標(基本方針)』、『取り組み(事業)名』、『コロナでも事業を行えるか』、『予算』(イメージ)、『取組(事業)内容』を準備会として決定する。

【検討の手順】

【第1段階】【資料3-1】まちづくり計画 取り組み分野の体系図の完成を念頭に置き、まずは、取り組み項目を決定する。

【第2段階】決定した取り組み項目に対して、それぞれ具体的に取り組み内容を検討し決定する。(予算や実施年度なども含めて検討)

【検討のポイント】

- ① 各分野において課題となっていることを確認し、課題解決へ【資料2】
- ② どれも大切な取組項目ですが、きちんと順位付けを【資料4】
- ③ 団体の既存の活動と照らし合わせた検討を【資料5・6】
- ④ with コロナの視点を忘れずに
- ⑤ 未来に広がるストーリーを意識して
[将来像(キャッチフレーズ):世代をこえて支え合う笑顔あふれるまち]
- ⑥ お互いを尊重して、和やかにじっくりと

■ 第1段階の検討に際し必要なこと

(1) 取り組み項目の絞り込み

- 重要性・実現性がともに高い取り組み項目は、協議会での取り組み項目としてはどうか【資料4】
- 上記の取り組み項目のほかに追加して取り組むにふさわしい項目を検討する（地域課題の解決を意識する【資料2-1】/既存の活動を意識する【資料5・6】）
- まちづくり計画が3か年計画であることを意識しながら検討する

(2) コロナ禍を想定した取り組み項目の検討・選定

- 8つある分野毎にコロナ禍でも取り組める項目、取り組むべき項目を検討し、選定する

■ 第1段階の検討方法について

- グループに分かれて検討を進める（多くの発言機会と意見を）
- すべてのグループが同一の分野について検討を進める（どの分野にも意見を）
- 広い会場を用意し、一堂に会して検討を進める（一体感を大切に）

■ 第1段階の会議について

- それぞれグループで資料をもとに分野ごとの取り組み項目を検討し、会議終了時に【資料3-2】に取り組み項目と選択の理由・意見などを記入したものを事務局に提出します。（月1回のペースで複数回開催）
- 第1段階での取り組み項目の最終的な決定方法と第2段階での具体的な検討手順は、改めて準備会にて検討のうえ決定するものとする。